

# 静脈産業の

## 現在地と未来



(6)

資源循環ネットワーク 彌永 冴子

直島内を散策している  
と、「鍛(からみ)」と呼  
ばれる、銅製錬の工程で  
発生する副産物を成形加  
工して作られた煉瓦やブ  
ロックを見かけることが  
ある。黒く重厚な外観は、  
意外にものどかな島の風  
景に溶け込んでおり、島  
景に溶け込んでおり、島

### 地域資源循環実現へ高まる期待

## 地元密着型の静脈産業が果たすべき役割

直島内を散策している  
と、「鍛(からみ)」と呼  
ばれる、銅製錬の工程で  
発生する副産物を成形加  
工して作られた煉瓦やブ  
ロックを見かけることが  
ある。黒く重厚な外観は、  
意外にものどかな島の風  
景に溶け込んでおり、島  
景に溶け込んでおり、島

つつ、それぞれの地域の  
特徴を最大限に活かした  
地域循環モデルの創出が  
重要である」と述べてい  
る。同戦略の実現に向  
け、同年9月に立ち上  
がった「CEに関する産  
官学パートナーシップ」  
においても、各地域の経  
済圏の特徴に応じた「地  
域循環モデル」創出が主

済合理性等によって、適  
切な地理的スケールが異  
なる。地域固有のバイオ  
マス資源や食糧残渣等は、  
市町村単位等の比較的狭  
い「地域」内での循環が  
最も経済的であり、環境  
負荷も小さい。一方、金  
属や処理困難物など、地  
域単位では技術的に処理  
が困難な場合や、処理コ  
ストが見合わないときは、  
特殊な技術やノウハウを

「地域」内での循環が適  
切なスケールであり、地  
場産業に特化した資源循  
環を実現することで、環  
境効果を生み出すだけで  
なく、ユニークな経済活  
性化効果を発揮してい  
る。人口減少が進み過疎  
化が進む日本において、  
地域活性化の観点から  
も、地域産業や固有文化  
などの特徴を生かした資  
源循環が、今後さらに重  
要視されることは間違い  
ない。

静脈連携を前提とした地  
域循環モデルを実現させ  
るうえで、地元密着型の  
静脈産業が果たすべき役  
割は大きい。加えて、こ  
れからの静脈産業は、よ  
り地域に根付いた地道な  
社会的活動への貢献とい  
われている。



鍛(からみ)で作られた煉瓦(香川県直島)

う観点でも、地元におけ  
るリユース事業の推進や  
障害者雇用の拡充、地域  
内未利用資源の積極的活  
用など、持続的な発展を  
支える取り組みにも積極  
的に参画することが期待  
されている。